

THE 1985 1

KOBECCO

JANUARY No. 285

月刊神戸っ子

神戸っ子 昭和40年1月20日 第三種郵便物認可
昭和60年1月1日印刷 通巻285号
昭和60年1月1日発行 毎月1回1日発行



'85
HAPPY NEW ELEGANCE



ツピス ニューエレガンス。

おのずと人を晴れやかに優雅にさせる新春のおとづれ……

トラディショナルなよそおいが

いちばん似合う時だといえまじよう。

そんなツピスな存在を今年も心をこめて「ハピニヤ」から
コングラチエレーションの表現です。

 **BENIYA**
KOBE・OSAKA・TOKYO

● 本店/三宮センター街1丁目
● エルベ店/センタープラザ1F

☎078(332)2135~6
☎078(332)2829

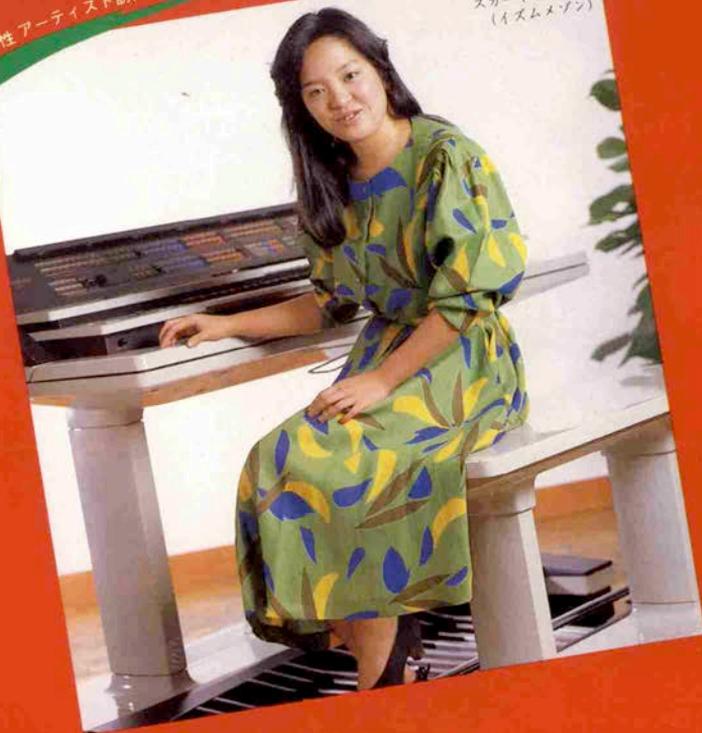
● レノマショップ/三宮センター街2丁目 ☎078(332)0788
● さんちが店/さんちがレディスタウン ☎078(321)2678

私より、目立ちやいけなない。

負けず、劣らず、女とジュエリー。

 田崎真珠

ismの女性アーティスト訪問 9



ブラウス ¥21,000
スカート ¥26,000
(イズムメゾン)

神戸から エレクトーンプレイヤー さとこと 鳥居達子の i s m

4歳からピアノを習い、小学校3年生からヤマハでエレクトーンに転向。話題は昨秋米・ロスアンゼルスで開催された第21回国際エレクトーン・フェスティバルで世界11ヵ国、13名中より、見事グランプリを獲得。受賞作、自作自演の“サ・スカイスクレイパーV(摩天楼)”は、ブロードウェイをイメージにしたヴィヴィッドなタッチで作曲、編曲にも大活躍という彼女の才能が遺憾無く発揮されている。相愛大の3回生は春色がよくお似合い。

WASHI DARIAN
ISM CO., LTD.
株式会社イズム

Head office: 10-7, 2-Chome, Ninomiya-cho, Chuoku, Kobe, 651, Japan TEL078-222-3641

Marketing room: 8-18, 2-Chome Ninomiya-cho, Chuoku, Kobe, 651, Japan TEL078-222-1331

※写真のブラウスを抽選で3名様にプレゼントいたします。ご希望の方は葉書に住所・氏名・年齢・職業を記名の上下記までご応募ください。'85年1月26日締切
〒650 神戸市中央区東町113-1
大神ビル9F 月刊神戸子
「イズム」プレゼント係

● Second Cover

世界の物売り(一)メキシコ

ルルセセニヨリータ

中西 勝 (二紀念)

大きなサボテンの軸に
砂糖菓子突き立てていた。



1985

あけましておめでとうございます。

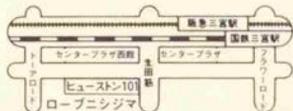


ご家族のファッションは今年もニシジマへ。



ニシジマ

- 型くずれの防止 ● 素材感の回復 ● お客様のお好みに合せた仕上
- カルテの作成 ● ファッション、クリーニングの最新情報の提供



神戸市中央区三宮町2丁目10番7号
ヒューストン101 ☎(078)332-2440

実験交流サロン

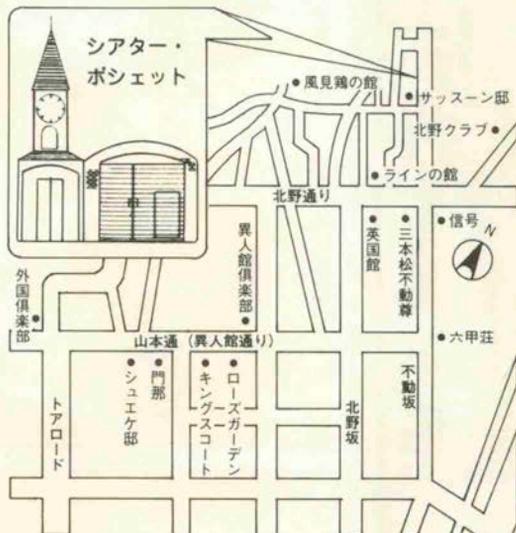
シアター・ポシェット

1月の公演

19日 劇団蜚気楼「デジャビュー」18:30

20日 同上 14:00

27日 フランス映画祭 日仏協会主催
午後～



★シアター利用のご案内

- 曜日、時間 / 土、日曜日 (通常) AM10:00—PM8:00
- 費用 / ホール設備の使用無料。光熱、空調、管理費のみ実費
- 付帯設備 / グランドピアノ・エレクトーン・録音、音響機器、ミキサー、照明コントローラー・テープレコーダー、マイク、映写機等
- お申し込み、お問い合わせ
そごう前センター街東南角、さんちか入口
〒650 神戸市中央区三宮町1丁目5-1 住友銀行ビル6F
佐本小児歯科 佐本進 ☎331-6302~3

A Happy New Year !

4月 OPEN!

ファーストクラスのリゾートホテル
ロイヤルグレースホテル 淡路島



地中海のホテル、バルコニー
陽だまりの中で「読書」する…

モナコ・レゼンブホテル/Photo by HARUHI TO MINAMI

2001年へのクルージング ——「くにうみの祭典」がくり広げられる
淡路アイランド・サンピアマリーナにも、太陽と自然に恵まれたロイヤル
グレースホテルが、誕生します。

淡路島・鳥羽・京都・有馬・熱海——南インターナショナルは、熟とび
あ、グレース・ソサエティークラブなど、インターナショナルリゾートライフを
テーマに、新しいヴィジョンをもったプランをつぎつぎと展開してまいります。

株式会社 **南インターナショナル**

神戸市中央区御幸通 5 丁目 2-6 ☎ (232) 1301

この初春は はる
思いきって、気まましたましょ。

Tajima
宝飾店 **タジマ**

元町2丁目 TEL 331-5761代表

●第九回神戸女流文学賞受賞

桑井朋子くわい・ともこ(ペン名ノ教師)

“制服を着た言葉”を超えて

受賞作『ストラルブラグ』の『ストラルブラグ』とは、スウィフトの『ガリヴァ旅行記』に出て来る不死人間の名。49歳の『あたし』は、カッパ薬局の天才薬剤師が発明した不死人間業だと思ひ込む。その『あたし』の部屋では今夜も風呂桶が洩れ、シクシクと嘆きのアリアを唱っている。一見すると喜劇タッチだが、「書き始める時は、深刻なんです。毀れた風呂桶やエンストした自動車などに老齢を迎えた人生のはかなさ、女の衰れさを見てしまう」。しかし書き進めると言葉が言葉を生み、「とんでもない世界へエスカレートしてしまっ……」。だから人からはネアカだと言われる。「チャップリンの悲喜劇が私の理想なんです。まだまだ力足らずで、作品の底に流れる部分を汲み取ってもらえない」ことが多いらしい。中学時代にスタンダールに触発されたのが創作のきっかけとなった。若い頃は「社会派」として貧困や婦人問題に目を向けて書いて来た。「あの頃は好奇心が外に向いていたのですが、年をとると自分の中に眼が向いて来て」作品の傾向も変って来たが、一貫して人間⇨男女関係を追う。書きたいことはいっぱいあるのです。問題は書き方。私は「制服を着た言葉」が嫌いなんです。既成のレトリックにとらわれず、どのように書くか」がこれからの課題だという。昭和七年八月生まれ。大阪府高石市在住。(高石市・等乃伎神社にて)





肌だけでなく、全身の新陳代謝を高める。サウナルーム。

Ladies Sauna S

初サウナ ぽっ、と肌染め さくらいろ



約1時間のサウナコースのあとは、レストルームでたっぷり休息を。

浴後は、ハーブティー。からだのなかまで、洗われる気分。ヘルシーカフェ。



自然の草花の薬効を含んだ蒸気を浴びる。ハーブサウナルーム。



ハーブの浸出液のバス。冷水バスなど、肌をひきしめ、しっとりさせていきます。

ヨーロッパの薬湯

ハーブのサウナとバス。

あなたのうつくしい素肌への

お年玉です。

1月1日～3日

お年玉プレゼント

ハーブティーをプレゼント。

期間中ご来店の

お客さまにもれなく。



サウナとエステティック 神戸レディスサウナ

神戸三宮・生田新道ワシントンホテル向かい
TEL.078-321-4742・4741

営業時間 朝10時～夜3時 年中無休

サウナコース(通常).....	1,900円
学生割引.....	1,600円
ビューティー・マッサージ.....	2,800円
オイル・マッサージ.....	5,500円
エレクトリック痩身マッサージ.....	3,500円
ミネラルソルト痩身マッサージ.....	7,000円
ボディ・パラフィンパック.....	6,000円
パラフィンパック美顔.....	4,000円
グリーンパック美顔.....	4,000円
薬草パック美顔.....	4,000円
ミネラマスク.....	4,500円
トリートメント美顔コース.....	5,500円



元旦より営業!

- 1月1日～4日 昼12時～夜12時 (受付は夜12時まで)
- 1月5日より 平常どおり朝10時～夜3時 (受付は夜2時まで)

深夜割引

夜12時～3時(受付夜2時まで)
1,900円のサウナ料金が1,200円に!

●第九回神戸女流文学賞受賞
宇山翠

うやまみどり元北九州市役所職員・無職

複眼の志向を全生活に

昭和37年、小倉市が催した小倉文化祭の小説部門でいきなり一等賞が彼女の手に。それまでの占領米軍勤務時代の10年間が一夜にして180度の大転換となった。

翌38年、5市が合併、北九州市の誕生とともに、「小説も書ける力のある人だから」と、新生北九州市の広報係に抜擢され、ニコン片手に市長にくつついて回った。

「カメラのフィルムの入れ方さえ知らない私が、市政だより編集のために、わけもわからず毎日毎日取材に歩き回ったのですよ」

やがて、市関係のものなら、テレビ、ラジオ番組の制作にまでタッチ、婦人団体の活動にも参加、「いつも活字がついて回る20年でしたね」と、宇山さん。50年、朝日ジャーナル「記録文学」入選、54年、九州芸術祭文学部門地区最優秀賞受賞、59年、婦人公論女流新人賞上位入選など、文学活動も精力的だ。

徳島から神戸、東京、そして小倉へと波乱万丈の生涯を送ったという元、報知新聞記者の父の足跡を辿り、自身のアイデンティを小説に求めたいと熱っぽく語った。

(北野町・英国館にて)





Beautiful
eye

わたしとメガネ

眼鏡は私のあこがれ

朝比奈 隆

〈指揮者〉

「眼鏡をかけたい、眼鏡をかけている人はエライ人」というあこがれがあったんです、とおっしゃる朝比奈隆さん。

シンフォニーホールでのベートーベン交響曲チクルスを控え、書齋で研究の日も多く、老眼鏡が大活躍。少年時代のあこがれからか視力はさほど悪くないのに、眼鏡はたくさんお持ちのご様子。

「眼鏡をかけた顔が、私の顔です。」とのことでした。

服部メガネ

神戸・大丸前 ☎(078)331-1123



関係者によりクス玉が割られる



設計者リチャール・ブリアさん(右端)もお祝にかけつけた

白いアーケード完成!

11月24日午前、三宮センター街2丁目アーケード及び新舗装が完成し、記念式典が華やかに行われた。新アーケードは白を基調にしたモダンなデザインで「カトル・セゾン」と命名され、カラー舗装とあいまってイメージ一新。

●コウベスナップ



孫文の足跡をたどる資料約300点が展示される



記念品を受ける孫穂芳さん

孫中山記念館オープン

中国革命の父、孫文(孫中山)ゆかりの移情閣(神戸市垂水区・県立舞子公園内)が11月12日「孫中山記念館」としてオープン。孫文の孫娘・孫穂芳さんをはじめ、孫文ゆかりの人たち約50人がお祝いに駆けつけた。



作品「光の森」の中に立つ新宮晋

「呼吸する彫刻たち—新宮晋展」 県立近代美術館でユニークに。

風や水や光など自然のエネルギーで自然のリズムや運動を造型する新宮晋さんの個展が“呼吸する彫刻たち”をテーマに兵庫県立近代美術館で11月17日～12月16日まで開かれ、ユニークな遊びの空間構成に不思議世界を展げた。



ファンタジックな光の世界を創り出す「小さな星」



●ある集い
神戸生活文化サロン
 (KLAC)



**モダンなコミュニケーションを
 演出するシンクタンク**
板東 慧
(生活文化研究所所長)

54年に関西で旗あげた生活文化研究所(社団法人)事務所(大阪梅田)は、生活文化のジャンルを食・衣・住・遊・身・心営の7分野として、ライフスタイルを研究するシンク・タンクである。

この研究所の特徴は、大学教授や研究者だけでなく、デザイナー・建築家・料理人・茶華道の先生などクリエーターとユーザーの立場での一般会員がライフスタイルをめぐって意見を出し合う場になっていることである。そのために、二ヶ月に一度開かれる研究例会は、サロンとして、まず美味しい料理を囲んでスピーカーのレクチュアがあり、それをめぐって談論風発するパーティーという雰囲気ですすめられる。会場としての料理店は大阪の明治以前からの料亭をシリーズとしたり、神戸のピストロをシリーズとするなど厳選される。研究会というお堅い会に飽きた現代人の新しいコミュニケーションを演出しようというわけである。ある時にはエール・フランスで空輸されたボジョレ・ヌーボーを飲み、ある時は会員のピアノ伴奏で唱うこともある。昨年までは、「日本文化の伝統と変容―変るものと変らないも



「ワインと料理」をテーマに北野町の「カサブランカ クラブ」で

の」を主テーマに「おせち料理と雑煮」「家族と住まい」「泣き・笑いの文化生理学」「まつりの東西比較」など四年間続けてきた。昨年からは「21世紀日本人のライフスタイル」をシリーズに「盛り場の盛衰」「21世紀の服飾」「21世紀のホテル」「ニューメディアとライフスタイル」などのテーマで例会が開かれている。

サロンの開催地は大阪・神戸・東京で、略称をLAC (Life and Culture の略・「楽」に通ずる) と呼び、神戸の場合はKが頭文字になっている。その他、六甲土曜サロンや北神戸サロンなど長期のセミナーや今年は創立五周年で、大阪と神戸でセミナー「人生80歳時代を生きる」を開講した。

機関誌は「月刊生活文化」で、例会での報告やセミナーの記録などが収録されている。

この研究所の会員は正会員、賛助会員あわせて約、法人会員が45である。

初代代表理事は多田道太郎京大教授、現任は末石眞太郎阪大教授、常任理事には井上宏聞大教授・奥村彪生(料理研究家)・田中国夫(蘭学大教授)・三輪富子(生活評論家)など、理事には、石毛直道(民族博助教授)・石坂晋生(洋画家)・上田薫(阪大教授)・鶴居洋子(服飾デザイナー)・嶋田勝次(神大助教授)・新谷瑛紀(彫刻家)・末次通子(読売文化サロン)・辻静雄(辻調理師学校校長)・中村茂隆(神大教授)・川中半造(阪大教授)・新野幸次郎(神大教授)・藤本ハルミ(服飾デザイナー)・山田浩之(京大教授)・米山俊直(京大教授)・望月美佐(書家)など、また在理事として、市川桂子(ダイエツト研究家)・うつみ宮土理(タレント)・松正誠(立教大教授)・松本己巳(共同通信社局長)・吉村平吉(民俗評論家)がいる。

■所在地/大阪市北区堂山町17-3